

# 前途 ようよう

- z e n t o y o y o - VOL.5

高齢者介護業界のあの人この人に、これからの高齢者介護についての予測や展望をお聞きするインタビューコーナーです。

## vol.5 社会福祉法人修央会 特別養護老人ホーム船橋笑寿苑 相談室長 平尾悟 様



【船橋笑寿苑 / 千葉県】



【平尾様】

### 1. 貴施設の沿革や特色について教えてください。

#### 【社会福祉法人修央会沿革】

- 昭和 57 年 8 月 26 日 法人設立
- 昭和 58 年 5 月 14 日 老人福祉施設軽費老人ホーム福寿荘（定員 100 人）を開設。千葉県船橋市初の民間老人ホームとして認可される。
- 平成 8 年 4 月 1 日 老人福祉施設特別養護老人ホーム船橋百寿苑（定員 50 人）を開設。  
船橋百寿苑の開設に併せて老人デイサービスセンター、老人短期入所施設（定員 20 人）及び老人介護支援センターの事業を開始。
- 平成 12 年 4 月 1 日 介護保険法の施行に伴い、指定介護老人福祉施設としての指定を得るとともに、短期入所生活介護、通所介護及び居宅介護支援の各事業の指定を得る。
- 平成 12 年度に特別養護老人ホームの増床事業を実施し、50 床から 80 床へと増床する。
- 平成 18 年 4 月 1 日 改正介護保険法の施行に伴い、介護予防短期入所生活介護、介護予防通所介護の指定を受け事業を開始。居宅介護支援は行政の委託を受け介護予防プランの作成を開始。
- 平成 24 年 4 月 1 日 船橋百寿苑在宅介護支援センター/ケアプランセンターを、坪井在宅介護支援センター/ケアプランセンターとして、坪井西に開設。
- 平成 25 年 6 月 1 日 地域密着型特別養護老人ホーム船橋笑寿苑を開設。併設する事業所として、短期入所生活介護、通所介護、認知症対応型共同生活介護事業を開始。

## 2. 平尾様のご経歴や法人での役割を教えてください。

大学では商学を専攻していましたが、平成7年に阪神淡路大震災を経験し偶然にもボランティアに携わることになりました。ボランティア活動で避難所のひとつを任された経験によって福祉に目覚めました。大学を卒業したのは平成8年で当法人の百寿苑開設の時にご縁があり就職しました。

船橋笑寿苑は、①ご自宅での介護が困難な高齢者に、安心・安全な介護と快適な生活の場を全室個室で3ユニットある長期入所 ②ご家族様の介護軽減や利用者様の社会交流などを目的とした短期入所 ③送迎付で日中に施設介護を提供することで、在宅介護を受けている方とご家族様の支援を行う地域密着型通所介護サービス ④家庭的な環境の中、各ユニットで役割を持ち、安定した自立生活の場を提供するグループホーム 以上4つの区分でサービスを提供しています。

私自身は入職後、介護職や専門職・相談員を経験し、現在は船橋笑寿苑で以上の4つのサービスの相談業務をまとめる相談室長を任されています。

## 3. 高齢者ケアについて

最近、介護業界が変わったと思うことや貴施設での近年のお取り組みの特徴について教えてください。

私が入職した20年前と比べると全てが変わりました。スタッフのみならず社会全体が「高齢者のひとりひとりがその人らしく生き活きと生活する」という視点に変化したことが一番変わったと思うところです。

船橋笑寿苑は船橋市北部地区に属しており、他の地区に比べて独居高齢者が非常に多い地区になります。その独居高齢者を地域全体で見守るシステムが必要だと考えますが、残念ながら現状はまだまだ行き届いていません。介護の観点や生活全般を含めて在宅高齢者の生活を見守ることができる環境になれば、「高齢者が暮らしやすいより良い地域」になると思っています。その包括的な見守りの観点から当施設は、テクノスジャパンの「ケアロボ」を導入して高齢者の生活を見守ることにしたのです。

また、当施設の大きな特徴として託児所が併設されています。介護には関係ないと思われるかもしれませんが、高齢者ケアにとって子どもの姿を身近に見ることができるのは「癒し」という大きな効果を生んでいます。それだけではなく介護スタッフの確保にも大きく役立っています。近くに子どもの姿を見ることができるので安心して働くことができると評価されています。私は、託児所の存在が利用者や職員にとってここまで大きなメリットになるとは思っていませんでした。



【「お花見」や「いちご狩り」などの季節のイベントを開催・笑寿苑では地域公開イベントも行います】

#### 4. 福祉機器とのかかわりについて

福祉用具があつて助かった事（活用メリットなど）を教えてください。

個室で転倒が懸念される方への対策や行動を見守るために「ケアロボ」を使用しています。利用者の転倒リスクにつながる行動をケアロボとセンサーを用いてスタッフが知ることができます。また、夜中の生活パターンなど検知した時の様子を写真で知ることができますので、その場ですぐにスタッフに対応でき、転倒・転落の要因が分かったことによって介護計画の変更ができました。おかげで利用者の転倒・転落事故をゼロにすることができています。

「ケアロボ」の使用が本当に上手くいって驚いています。利用者の事故がゼロになっただけではなく、スタッフが利用者を見守れることで余裕がうまれて精神的な負担の軽減にも繋がっていることが嬉しいです。

※設置場所や使用イメージは、今号のテクノス通信 Home「在宅ケア Now」でご紹介していますのでご覧ください。

<http://www.technosjapan.jp/correspond/qa/pdf/home05n.pdf>



【ケアロボ本体】

+



【コードレスマットスイッチ】

→



【携帯電話・受信画面イメージ】

#### 5. これからの高齢者ケアについての展望や期待、夢を教えてください。

船橋笑寿苑は、生活される方や利用される方、その方々に関わる全ての人に「笑い」が溢れる施設であることが願いです。心安らかに楽しく過ごせる環境を「まごころ」を込めて提供し「笑いが絶えない我が家」と思ってもらえるようにスタッフ一同努力していきます。

当施設は法人の経営理念である「地域に開かれる法人」「地域に愛される法人」「地域に信頼される法人」とあるように、私自身の考えも、住民が困った時は助け合って何でも相談できるような地域に無くてはならない存在の施設でありたいと思っています。

また、地域包括ケアの現在は施設と医療の関係が課題だと思っていますが、今後は制度の浸透から社会の変化やICTの活用で連携強化が進んでいき、より安心できる地域ができると思っています。

テクノス通信 Home（2018年5月発行）より